

平成 26 年（2014 年）3 月期決算概要

会社名 : クラレトレーディング株式会社
 代表者 : (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 片岡 史朗
 問合せ先責任者 : (役職名) 人事・総務部長 (氏名) 宮西 賢治
 : (TEL) (06) 7635-1636

(1) 当期の連結経営成績に関する定性的情報

当連結会計年度（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）の当社経営環境は、米国景気が回復しつつある一方、中国をはじめとするアジア新興国経済は減速状態が継続する展開となりました。また、日本国内景気は全体的には回復傾向にあるものの、当社事業領域においては競合激化など厳しい環境に晒される分野もありました。

このような中ではありますが、中期経営計画「GS-Ⅲ」に掲げました、①環境向上資材・ヘルスケアなど世界的成長が予測される分野への重点投資、②アジアを中心とした海外事業の拡大とそのための基盤整備、等からなる経営戦略に従い、持続的成長を実現するためのアクションプランの推進に努めました。その一環として当期は、

- 上海現地法人での化学品商材の取り扱い開始(2013 年 4 月)
- ベトナム・ホーチミン市への現地法人設立 (2013 年 8 月)
- ベトナム・ダナン市での縫製工場拡充(2013 年秋)

等の施策を実施しました。

また、円安定着を背景とした、原材料、加工賃等の各種コストアップに対しても、コスト削減や価格転嫁等の対応に努力しました。

当連結会計年度の経営成績は、売上高は 1,089 億 9 千 1 万円（前期比 2 億 3 千 1 百万円、0.2%の増収）、営業利益は 35 億 8 千 2 百万円（同 2 億 2 千 4 百万円、6.7%の増益）、経常利益は 37 億 8 百万円（同 2 億 5 千 6 百万円、7.4%の増益）、当期純利益は 22 億 9 千 6 万円（同 1 億 6 千 6 百万円、7.8%の増益）となりました。

【連結業績】

(単位：百万円)

	当 期 (平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月)		前 期 (平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月)		増 減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売 上 高	108,991	-	108,760	-	+231	+0.2%
粗 利 益	8,651	7.9%	8,540	7.9%	+111	+1.3%
営 業 利 益	3,582	3.3%	3,358	3.1%	+224	+6.7%
経 常 利 益	3,708	3.4%	3,452	3.2%	+256	+7.4%
当 期 純 利 益	2,296	2.1%	2,130	2.0%	+166	+7.8%

(注) 当社の連結子会社は、可樂麗貿易（上海）有限公司の 1 社であり、同社の連結累計期間は平成 25 年 1 月 1 日から同 12 月 31 日となっています。

【単体業績】

(単位：百万円)

	当 期 (平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月)		前 期 (平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月)		増 減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売 上 高	107,983	-	108,307	-	▲324	▲0.3%
粗 利 益	8,306	7.7%	8,379	7.7%	▲73	▲0.9%
営 業 利 益	3,428	3.2%	3,311	3.1%	+117	+3.5%
経 常 利 益	3,536	3.3%	3,397	3.1%	+139	+4.1%
当期純利益	2,168	2.0%	2,088	1.9%	+80	+3.8%

以下< >の中の名称は(株)クラレの商標です。

(2) 営業の概況

【繊維関連】(増収、増益)

売上高は423億円。前期比3億円(0.9%)の増収。

(衣料分野)

- スポーツ分野は、スポーツアパレル向け高機能素材が拡大したものの、学校体育衣料向け販売が、一部アパレルでの在庫調整や少子化による販売量減の影響を受け、減収となりました。
- ユニフォーム分野は、一部アパレルで在庫調整が継続しましたが、国内景気が回復傾向にあることを受け縫製品を中心に販売量が伸び、増収となりました。
- ブラックフォーマル分野は、ロードサイド向けが好調に推移していることに加え、高付加価値生地「フォーマックス」が順調に拡大し、増収となりました。
- 上海現地法人では、テキスタイル販売が伸び悩みましたが、注力している縫製までの一貫体制の構築により縫製品販売が拡大しました。また、<ミントバール>と綿との特殊撚糸である「セルナーレ」糸が、タオル用途向けに拡大しました。

以上の結果、衣料分野は増収、増益となりました。

(資材分野)

- スポーツ靴用資材、メディカル関連資材は、好調な需要に加え顧客との素材開発の取組みが貢献し、売上高は順調に拡大したものの、利益面では原材料・加工コストの上昇を受け苦戦しました。現在、ベトナム現地法人との協働により、現地日系企業向けに素材の現地調達・現地加工を可能にする一貫供給体制の構築を急ピッチで進めています。
- 産業資材は、自動車産業の回復に伴い自動車用ゴム資材が拡大した他、FRC(繊維補強セメント)用ビニロンや水溶性 PVA 繊維<クラロン K-II>の販売が回復し増収となりました。
- 人工皮革<クラリーノ>は、売上高はランドセル用途が顧客の在庫調整による影響から伸び悩みましたが、利益は手袋など製品事業において顧客との取組みが進展し、拡大しました。
- ワイピング用クロスをはじめとする不織布関連は、国内競合が厳しい中苦戦しました。

以上の結果、資材分野は、減収、減益となりました。

【樹脂・化学品・化成品関連】（前期並み、増益）

売上高は667億円。前期並み。

- 溶剤ほか、化学品関連は、日本、上海現地法人とも順調に拡大しました。特に、上海では化学品の取り扱い範囲拡大が認可され、新規にケミカル商材の販売が加わり、大きく伸長しました。
- 環境関連資材含むその他の分野は、空気浄化関連商材が伸長し増収となりました。

（3）平成 26 年 12 月期の連結業績予想（平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日）

当社を取り巻く経営環境は、減速した新興国経済やグローバル経済下での競争激化、また日本での消費増税の影響など、厳しい要素を抱えております。その一方、米欧経済や日本経済が回復基調にあるなど、明るい兆しが出始めていると認識しております。

次年度は 2012 年度をスタートとした中期経営計画「GS-Ⅲ」の最終年度にあたります。経済環境が当初想定より悪化した影響も加わり、遺憾ながら業績は「GS-Ⅲ」を下回っております。しかし、「GS-Ⅲ」で掲げました基本戦略を見直す必要はないと判断しており、引き続き持続的な成長を目指し、用途開拓やアジアを中心とした海外の市場開拓に積極的に取り組んで参ります。

また、定着しつつある円安に伴い原材料や加工費が上昇しておりますが、価格戦略やコスト削減の努力を通じて収益の確保に努めていきます。

クラレグループは、平成 26 年 6 月 20 日開催予定の株式会社クラレ定時株主総会での決議を前提として、次年度決算期を従来の 3 月 31 日から 12 月 31 日に変更する予定です。これに伴い、第 2 四半期連結累計期間は、日本が平成 26 年 4 月 1 日～同 9 月 30 日、上海が平成 26 年 1 月 1 日～同 6 月 30 日と従来通りであります。通期連結累計期間は、日本が平成 26 年 4 月 1 日～同 12 月 31 日、上海が平成 26 年 1 月 1 日～同 12 月 31 日となります。

これを反映した次期連結会計年度の業績予想は下表の通りであり、当年度同期に対し増収、利益横ばいを予想しています。

（億円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
第2四半期(累計) (対前期比)	550 (+3.8%)	17 (±0.0%)	17 (±0.0%)	11 (±0.0%)
通 期 (対前期比)	850 (+5.1%)	25 (±0.0%)	26 (±0.0%)	16 (±0.0%)

<注記>上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいており、実際の業績は今後様々な要因によって大きく異なることがあります。

以 上